



TITLE:

福知山盆地と由良川

AUTHOR(S):

八田, 久太郎

CITATION:

八田, 久太郎. 福知山盆地と由良川. 地球 1936, 26(4): 285-293

ISSUE DATE:

1936-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184610>

RIGHT:

風景の再檢の希望を起したが今尙機を得ない事を遺憾として居る。蓋し丘陵地、浸蝕臺地、テレース、深く刻める河によりて開展された溫雅な均齊が氏の審美眼を引きつけた事は察するに難くない。其後此事を巨智部博士に話したら、その贊川につきては面白い事があるとして語つた。

或年地質見學の爲ナウマン氏に引率せられた地質及探鐵の學生數名は荒川に沿ふて秩父盆地に入つた。其時、私は河床にて砂金を囓んだ礫を發見して、ナウマン氏に賞められた事等あつて、進んで贊川橋畔の宿屋に泊つた。始めて洋人の珍客

を見た人々の驚は多大であつたが、宿の女主人は私に耳語して云ふには、「あんな立派な人が此世の中にあらうとは思はなんだ」とて如何にも感激して居た。

青春に溢れたる白人の透徹清澄なる色彩は花の精とでも見えたであらう其人も、私の遇つた時は瘦型の光頭の好々爺となつて居た。春風秋雨六十年人已に遠く茲に禮讚奇遇の佳話を傳へてナウマン氏の魂の籠つた桃源の風色が世に現はるゝ機縁とならん事を希望する。

福知山盆地と由良川

八 田 久 太 郎

所要地圖

二十萬分ノ一帝國圖 京都及大阪

五萬分ノ一地形圖 福知山、綾部、大江山

二萬五千分ノ一地形圖 福知山東部及同西部

福知山盆地と由良川

一、地 形

二十萬分ノ一帝國圖京都及大阪號の北西部を占める福知山盆地は、東は綾部から西は福知山

町まで由良川に沿ふて東西に約十五籽、南北約一・五—二籽の幅で開け、尙福知山町で同様な幅で丁字形に南北約七籽の盆地に終つてゐる。この部が福知山盆地の主要部分である。

盆地の形を尙些細に觀察すると、由良川の支流に沿うて分岐してゐるので、名狀し難い複雑な形を呈してゐる。即ち福知山町の北西に牧川と荒川の小支谷盆地が加はり、又北東方では報恩寺川・犀川・以久田川の支谷が加はつてゐる。支盆地の走向は東西又は北々西—南々東のものが多くて、地質構造線の方角と一致してゐる。盆地の高度は著るしく低くて北方牧川との合流點では約十二米、福知山北端で十五米、綾部近郊で三九米餘に過ぎない。

盆地の四周は五百乃至六百米に達する鬼ヶ城・烏嶽・姫髪山・高嶽等の古生層山地が取巻いてゐる。此等の山地は古生代の褶曲地層を截斷した隆起準平原で、盆地は地溝盆地である。然し斷層崖は著るしく開析されて地溝盆地は厚い堆積層

で被はれ山麓線は著るしく屈曲を呈してゐる。盆地の堆積層は礫と粘土が交互に水平に重つてゐる。盆地の處々に五〇—一五〇米内外の丘陵性山地がある。例へば福知山城址の朝暉山・福知山町東方約一・五籽の愛宕山及びその稍南方（福中西端）の明神森があり、同性質のものと思はれるのに長田野の旗竿山・以久田野の小岡等がある。此等何れの丘陵にも古生代の砂岩又は粘板岩が露出してゐるので、福知山地溝盆地成生に際して陷落した地塊の上部が残つてゐるものであらう。

盆地は近い地質時代まで湖沼であつたと推定せられる。土地の沈降によつて狭長な盆地は湖沼と化し、周圍の山地より運搬された岩屑は厚く堆積された。荒木神社の社寶である神並山記に蘇我氏及物部氏が巡撫使として見えた時地名を邑民に問はれたがその答に「……此の郡を天田と云ひ邑を船路と申す。……船路といふは古此の所海路なりと傳ふ……」との句があり、又

福知山の南方約四料の岩間に會て鹽竈があつて製鹽してゐた云ひ傳へが残つてゐる。これから見ると或る時代には盆地内に海が入込むでゐたとも思へる。其の後の上昇は、由良川の復活となり、厚い堆積層を開析して四周に段丘を残すに至つた。福知山及び綾部の近郊で四段乃至五段の段丘を見る事が出来るのは、土地の上昇が間歇的に數回繰返された事を物語つてゐる。

二、段丘

段丘の内最も著るしいのは、福知山町の南東約二料の地點から東方高嶺の山麓に亘つて展開してゐる長田野である。面積は四百町歩（四平方料）平均高度は七〇米内外の段丘である。浸蝕の程度は至つて若く、幼年初期の状態にある。

東端の大鼓原の如きは殆んど平坦な面として残つてゐる。この段丘面上に陥落地塊が丘陵狀に立つてゐる。旗竿山・二子山等その例で古生代粘板岩が露出してゐる。陸軍第四師團の管轄する陸軍演習場となつてゐるがこれは三百八十五

町歩が明治四十三年六月六日に、價格二十一萬圓で下六人部村より賣却せられたものである。この段丘と同一性質のものが盆地の北東に存する以久田野で廣さ約二平方料に近い。最近まで針葉樹林地及び草地として顧みられなかつたが昭和八年の四月から京都府立城丹蠶業學校が校友會の事業として一六八五坪を坪二七錢で買收し、開墾作業に従事した。昭和十年度の收穫成績は左の如くであつたといふ。

馬鈴薯	六〇〇貫	陸稻	八石	小麥	六石
菜菔	一〇〇〇貫	蠶豆	二〇〇貫	小豆	二石
甘藷	三〇〇〇貫	桑葉	五四〇〇貫		

其他柿・桃・梅・胡桃・葡萄・梨等の果園が約一町歩經營せられその成績が注目せられてゐる。其他以久田村民もこゝに桑園を開墾しつゝある。

次に著るしいのは四十米段丘で、福知山城址から南方岡ノ町へ細長く殘存してゐる。砂岩の露出してゐる陥沒山塊が由良川の浸蝕に抗した爲に其南方に段丘が保存されたもので曾ては福知山城のあつた地であるが現在は住宅地・衛戍

病院・女學校・第二十聯隊等の諸官衙がある。鐵道はこゝを切通して東西に通じた。北方の庵我村東方の雀部村・中筋村等にもよく残つてゐる。

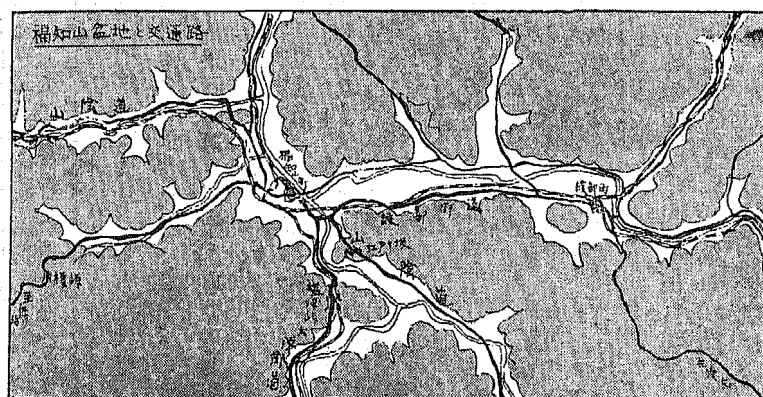
第三の段丘は三十米で、第四の段丘の二十五米と共に盆地に散在する聚落立地となつてゐる。その最も標式的なのは福知山町字堀の地方でその一部は練兵場に利用されてゐる。福知山中學校もかゝる段丘上にある。ついで庵我村の由良川畔に十五米の第五段丘が見える。

かく福知山町四近は段丘の著るしく發達することが地形の特色である。盆地の東端綾部町の南方字寺及び北方の吉美村には最高九十米の段丘がある。ついで七十・六十・五十・四十と十米毎に階段狀に段丘が保存されてゐる。綾部町は七十・六十・五十・四十米の四段丘に跨つて發達した町で南方に高くなつてゐる。

三、盆地と交通路

福知山町は古來山陰の大阪と稱せられる商都

第一圖



で、北丹波の中心地であり山陰道の要地を占めてゐるので盆地の四周への交通路もよく通じてゐる

1、福知山町よ由良川の流に從つて

北進し下天津の狹隘を過ぎ河守盆地に通ずるもの。

2、牧川に沿うて和田山方面に通ずるもの——山陰道。

3、榎峠(三〇〇米)を経て佐治方面に通ずるもの——佐治街道。

4、鹽津峠(九五・三米)を経て大阪方面に通ずるもの——大阪街道。

5、江戸ヶ坂(四〇米)を経て園部・京都に通ずるもの——山陰道。

6、盆地の南縁を東進し、綾部を経由して由良川に沿ひ園部に通ずるもの——綾部街道。

7、綾部より舞鶴方面に通ずるもの——舞鶴街道。

8、盆地の北縁を由良川に沿うて東進し、綾部に通ずるもの。

9、8の途中小貝より物部を経て河守盆地に通ずるもの。

右の内山陰道は上古から出雲地方と近畿とを

福知山盆地と由良川

結ぶ重要な道路として利用せられたもので、四道將軍の派遣されたのも此の道路に沿うてであつた。

綾部街道は盆地南縁の段丘上を通過し、洪水の害を免れ、盆地の聚落を結ぶものとしては利用價值が最も著るしい。綾部福知山間で二回鐵道を横斷する不便と、小屈曲をなせる事及び道幅の狭い事等の理由から、昭和十年秋に其等の缺點を除く産業道路が完成した。鐵道は由良川に沿うて敷設され、地形との關係が密接である事を示してゐる。

四、聚 落

盆地に散點する聚落には集村が多い。これは此の盆地の産業が米・麥・養蠶に主力を注いでゐる農業本位の盆地にとつて、自然に發達したものである。然も小さなこの集村が盆地を南北に横切つて殆んど等距離に分布する事と、大部分は段丘上に發達してゐる事は著るしい特色である。

段丘上に分布する理由は(1)屢々起る由良川洪水の害を免れること、(2)良飲料水が得られること、(3)土地高く排水よく衛生によいこと、(4)山地と田畑の中間に位置し、勞働に便であることに歸する。此の住居地選擇の條件が古代人に既にさうであつた事は、以久田村・吉美村等に特に多く分布する古墳の位置によつても推察される。随つて盆地交通の主要道路は集村を連ねて段丘上に在り、山陰線も綾部・福知山間は南の段丘上に在る。盆地横斷の南北交通路は東西の交通に對して副次的に過ぎない。著るしい例外としては福知山町の一部が低地にある事である。これは交通の交叉點で、地方商業の中心を町の生命とする爲に悪い井戸水(昭和八年より上水道完備)と、洪水に惱み乍らもこの低地に發達したものであらう。

聚落の地名を見ると川や湖沼に關係したものが多い。石原(西中筋村)・高津・大島・槻瀬・長砂・石原(以久田村)・川北・猪崎・荒河・池部・天

津・波江・立原等はその例である。又上古より氾濫原を利用して桑園とし養蠶業が盛に行はれてゐる爲に、それと關係のある地名も所々に見られる。綾部・小貝等はその例である。綾部は漢部である。支那民族の歸化人で、よく綾を織る者を綾人と云ひ、その部を綾部と云つた。雄略天皇の御代に秦氏を桑によろしき土地に遷して蠶を飼ひ、好絹を織り以て業を弘めしめ給ふた記録がある。この時綾部に秦氏の一族を分置されたものである。綾部近郊に古墳群のあるのはその一體であらう。佐賀村の小貝は蠶飼が轉化したものと推察されてゐる。

五、由良川と洪水

(一) 由良川的特色

北丹波と丹後の地を流れて若狭灣に注ぐ由良川は長さ百四十軒餘に過ぎないが種々の特色を有してゐる。

- (1) 支流の多いこと。支流數百五十餘に達す。
- (2) 流域が廣く千八百平方軒に及ぶこと。

(3) 低位置を流れてゐること。福知山盆地は丹波第一の低地である。随つて河の勾配が緩である。

(4) 盆地を蛇行してゐる。最も著るしいのは雀部村川北の南方で盆地の所々には三日月湖が數箇散點してゐる。曾て由良川は福知山町を横斷し笹尾部落で北折し荒河を経て北流してゐた事は、古老の言と、その道筋に當る所は地下に石が多くて井戸を掘り得ない事と、その一部が福知山城の御堀として最近まで残つてゐた事等によつて了解される。

以上の特色は由良川の洪水を起す主なる原因である。福知山町は低地に發達した爲にこの害を受ける事が最も著るしく、土師川とT字形に交つてゐる爲に、堤防の決潰し家の流出した事も屢々である。

(二) 福知山町の洪水

記録の存する寛文六年以後の洪水記録は次の

福知山盆地と由良川

様である。

寛文六年(二三二六)八九月の候大水七度あり。

延寶六年(二三三八)九月五日大洪水。

同八年(二三四〇)五月十七日より八月迄に出水八度、八月十五日大洪水。

五日大洪水。

元和元年(二三四一)大洪水あり、死者一二三人。

貞享三年(二三四六)九月九日大風・洪水、流失戸數二七、半壊一五。

元祿一〇年(二三五七)五月十一日大洪水、一丈一尺。

同一年(二三六三)八月十八日大洪水。

享保六年(二三八一)八月十五日大洪水、一丈八尺。

同二〇年(二三九五)六月十八日より雨、廿日夜大洪水、死人

多く壊家一二七戸。

元文五年(二四〇〇)六月大洪水。

寛延二年(二四〇九)七月三日洪水、一丈七尺。

寶曆七年(二四一七)八月二十二日洪水、一丈五尺。

明和元年(二四二四)八月三日洪水、一丈六尺。

文化三年(二四六六)八月九日大洪水。

文政一二年(二四八九)七月十八日洪水。

天保一一年(二五〇〇)六月餘りに降雨多く、日和乞をなす。

弘化四年(二五〇七)四月大洪水。

嘉永元年(二五〇八)八月十三日大洪水、一丈九尺。

安政二年(二五一五)八月廿日大洪水、二丈。

同三年(二五一六)五月十五日大洪水、一丈四尺。

慶應二年(二五二六)五月十五日大洪水、一丈九尺。

八月七日二丈七尺。同十六日一丈四尺。

同三年(二五二七)四月廿九日洪水、一丈四尺。七月十九日洪水、二丈二尺。

明治二年(二五五六)八月卅一日大洪水、二丈二尺。流失三〇〇戸、死傷三〇〇。侍從東園基愛閣下御差遣。

明治四〇年(二五六七)八月廿六日大洪水、二丈七尺。内記町流失。倒壊流失家屋三五〇戸、全町破となる。十月二日東園侍從御差遣。

昭和二年(二五八七)福知山水防組成る。

以上寛文六年より今日迄二百七十年間に二十

七回の大洪水があり、平均十年に一回の割合となつてゐる。

(三) 洪水對策

藩政時代には平素から土俵や木杭を準備し、

又堤防保護等種々の對策が講じられてゐた。廢

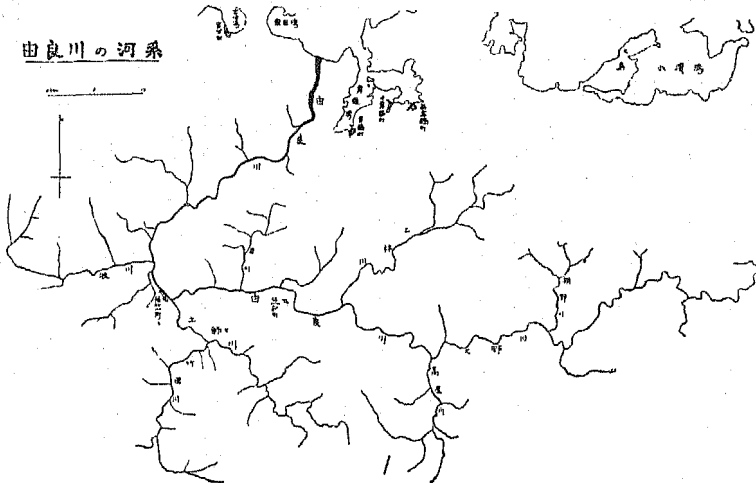
藩後水害も比較的少く、準備も等閑に附せられ

てゐたが、明治四十年には増水二丈七尺、沿岸

被害三百四十八萬圓に及んだ。そこで土師川と

の合流點、朝暉山城址から町の北端まで六百八

第二圖



十間に亙つて高さ三丈五尺のコンクリート大堤防が築造された。これが爲に昭和五年昭和七年昭和九年の約一丈五尺乃至二丈に近い大増水に際しても被害は殆んどなかつた。

町民の経験によると約三日間降雨が續くと一丈五尺内外の増水を見る事になるので、その危険があると見ると疊・簞笥等の荷物は全部二階に上げ、床上浸入による被害を免れる。勿論二日乃至三日間の食糧が準備される。浸水状況は先づ下天津の狹隘で停滯し、由良川に沿ふ福知山北方の山陰道及び北丹線が浸水し、その深さが約三米に及ぶと福知山北方から浸水し始め。その状況は井戸水と下水が溢れ出て漸次床上に及ぶ。

以上の様な浸水である爲に稻作及び桑園に對する被害は少くて、却つて桑園には肥料が運ばれて肥沃となるの利がある。唯床下の濕氣が去り難いので惡疫流行の恐れがあり早く乾燥せしめるのに不便不利を感じる。

昭和二年度より町に水防組が組織された。洪水に際しては町所有の舟を浮べ萬一に備へる。年一回の出初式も行はれる。減水に際しては持ち運ばれた塵埃を南方の高い土地から北へ漸次押し流し、大掃除が行はれる。度々流失の憂目に會つた福知山町東部に架した音無瀬橋は府費によつて昭和七年にコンクリートによる近代橋梁になり大堤防と共に町の一名所となるに到つた。(完)